

島根県の鳥獣専門調査指導員の
ツキノワグマによる被害地での対応
～雲南市多根地区での事例をふまえて～



島根県東部農林振興センター雲南事務所
鳥獣専門調査指導員
梶 誠吾



鳥獣専門調査指導員

もともとはクマ現場対応のための採用

○業務：先ほど説明があった通り

クマだけでなく、様々な鳥獣害の相談も多く、被害対策は多岐に渡っている

痕跡を断定しても感情が高ぶっていると信用されないときもある

これは絶対にサルだ！

信じてもらえないときは実演する



専門員として意識していること

- ・お茶飲みから得られる情報の大切さ
- ・難しいことは言わない
- ・いいからとりあえずやってみましょう
- ・研修会は30分
- ・聞く力＋提案力

提案

○何か対策ないかと言われた時に、失敗したときの責任を第一に考えると農家に見抜かれる

すぐ提案することが大事。

特にその農家の考え方にあった提案を心がけている

研修会は30分

対策後の**効果検証**は非常に大事！！

研修会をすると地区の本気度がわかる

研修会のときに出る意見

- ・そんなのは現場を知らない理想論だ！
- ・もっと具体的な対策の話が聞けると思っていた
- ・けもの道を刈って嫌がらせをするといっても耕作放棄地だらけでそんなどこからでも出てくる
- ・イノシシが川から上がってくるので川幅を広げろ！

反省

- 相手が何を求めているのかであったり、集落の状況を把握しないと、正しい対策の話をしてても何も伝わらない

研修会30分の間に
正しい情報をわかりやすく伝える

80代の方にあなたの話は
わかりやすかったと言ってもらえるようになった

○補助制度の話をされなくて良かった。
その話をされるとみんな役場がやってくれるものだと思ってしまう。
それよりこの地区をわかってくれているから、こうした方がいいと思うことを言ってほしい。それを聞いてどうするかは集落のやること。

掛合町 多根地区の事例紹介

2016年はクマによる柿被害が本当に多かった



クマを寄せ付けない対策として

有線放送で不要な柿の伐採を呼びかける

➡ 苦情は来たが
伐採してくれた人も何人かはいた



貸し出し用電気柵





クマを柿に登らせない対策

トタンを巻く





• ワンコイン対策
500円

とりあえずやってみる
ことが大事！



カキもぎ



掛合町 多根地区

2016年はクマによる柿被害が本当に多かった

住民

カキ被害が出たところはクマを捕獲してほしい

有害捕獲班

カキ被害が多くて、捕獲檻の対応が追いつかない
見回りきれない

檻を設置するが捕獲もほとんどできていない



それでもクマは出没し続ける

掛合町多根地区 クマ対策検討会 (7自治会)

住民

- ・地球は人間中心で良いのでクマはいらない
- ・県はまだクマを保護するんか
- ・民家近くに出没するようになったのは今まで保護してきたからだ
- ・保護もいいかげんにしないと人が亡くなったら責任を取るのか

猟師

- ・錯誤捕獲のクマを逃がすのだけはやめてくれ
- ・狩猟の解禁を望む

検討会での猟師の発言力は大きい

有害捕獲班 O氏談

有害捕獲の檻をおくだけでは問題は解決しない！

トタンを巻く、電気柵を設置するなどの被害防除が一番効果的だった



今まで捕獲一辺倒だった対策検討会の中で、このような発言をしてくれたのは大きな一歩

その後、O氏と協力して多根地区で
カキの本数と被害木の本数を調査

地域に詳しい猟師がやってくれ
地域が動きはじめる

多根地区で
カキを所有している125戸に調査
手書きの地図を描いてもらう

- ・クマの生態、被害対策
- ・特に柿などの誘引物がどれだけクマ、イノシシをおびき寄せているかの説明

住民と最も近い場所で
話し合わないとは何も解決しない

掛合町多根地区 7自治会全てで実施。
大体、男性しかいないときは怒られる

2016年

掛合町多根地区にカキはどれくらいある？

カキ 344本

うち被害カキ 91本

→ これらをどうしていくか
考える

伐採 7本

伐採可能 27本



2017年

- ・6本の力キを地区で伐採
- ・トタンも自主的に設置していた



「トタンはわしんどこはいつから
張ればいいんかいのう??」

各自治会への研修会を行い
クマ対策への意識向上の成果はあった

まとめ 掛合町多根地区

○有害捕獲班員と一緒に捕獲だけでなく被害防除を行っている。

○柿の伐採やトタンを巻くことで、2017年は多根地区へ被害が起きず、クマの出没が減少した。

➡ ただ、2017年は、
出没減少として木の実の影響も考えられる

○次回大量出没時に、力キマップを比較することで
対策の効果検証できる体制ができている

怒られて心が折れている。が、何回も現場に通っていくと、今回の有害捕獲班員の〇氏のようにクマ対策に理解のある人は必ず出てくる。

その人を見つけたときが本当の対策の始まり
これが地域ぐるみの鳥獣対策への第1歩

ご清聴ありがとうございました

